

株主の皆様へ

FUJI NIHON SEITO CORPORATION

第 **96** 期
事業報告書

2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日

 **フジ日本精糖株式会社**

証券コード：2114





株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、フジ日本精糖株式会社の第96期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の業績ならびに営業の概況につき、ご報告申し上げます。

本年、「平成」という一つの時代が幕を閉じ、新しく「令和」という時代を迎えることになりました。わが国を取り巻く経済環境に目を向けると、TPP11・日欧EPAなどの新たな貿易の枠組みがスタートする一方、米中貿易戦争の行方は予断を許さない状況で、直接的、あるいは間接的にモノの流れには、変化が起きて来ると思われます。また、もっと身近なところでも、AIの活用による技術革新、キャッシュレス化、働き方改革など、我々の生活様式にも様々な変化がもたらされようとしています。

当社では、本年度より、新たに3か年中期経営計画がスタートします。新たな「令和」の時代に、これから起きて来る様々な変化に挑戦し、柔軟に対応しながら、業績向上を目指し、当社としての新たな歴史を刻んでいきたいと思っております。

株主の皆様には、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2019年6月
代表取締役社長 櫻田 誠司

企業理念

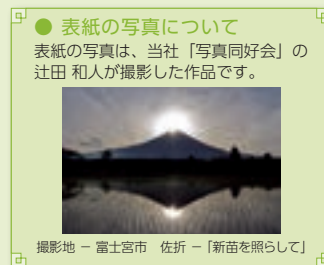
私たちは、「夢のあるたくましい会社」を目指し、健康な生活づくりに貢献します。

CONTENTS

ごあいさつ P 1	会社概要／株式情報 P 9
トップインタビュー P 2	トピックス P10
セグメント別の状況 P 5	インフォメーション 裏表紙
連結財務諸表 P 7		

経営方針

- ① 顧客第一主義の徹底
- ② 会社の発展と共に社員が成長する企業文化の形成
- ③ 公正で透明性のある企業活動の推進
- ④ 社会に評価される企業価値の向上
- ⑤ 社会に貢献する企業市民活動の充実



変化に対応し、独自に成長を持続できる会社へ。

代表取締役社長 櫻田 誠司

Q 当期（2019年3月期）の営業状況をご説明願います。

A 精糖事業は減収ながら利益改善。「イヌリン」販売が拡大し、ユニテックフーズも好調に推移しました。

当期は「イヌリン」の国内販売が拡大し、連結子会社ユニテックフーズ株式会社のゼラチン・ペクチン販売も好調に推移したものの、精糖事業において製品価格が弱含みに推移したことと販売数量が前年を下回ったことから、売上高は前年同期を下回りました。利益面では、液糖生産の集約化による合理化効果と「イヌリン」の販売拡大を受け、営業利益・経常利益は大きく改善しましたが、タイ連結子会社2社に関して、事業計画の遅れを踏まえて、減損損失を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は減益となりました。

結果として連結業績は、売上高196億34百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益13億49百万円（同45.2%増）、経常利益15億73百万円（同28.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益3億44百万円（同56.7%減）となりました。

精糖事業は、海外原糖相場の下落を受けて製品価格が軟調に推移したことに加え、酷暑および暖冬の影響により飲料関係を中心に荷動きが低調となり、販売数量が減少しました。

機能性素材事業のうち、ユニテックフーズ株式会社が展開するゼラチン・ペクチンの販売は、大手コンビニエンスストア向け食品への採用などにより、売上を伸ばしました。

「イヌリン」の国内販売は、前期中に三つの機能性表示（整腸作用、血中中性脂肪の低減効果、食後の血糖値上昇抑制効果）を取得したことで、大手飲料メーカーや食品メーカーにおける採用が増えたことに加え、低糖質素材としての評価も高まり、順調に成果を上げています。一方、タイ連結子会社Fuji Nihon Thai Inulin Co., Ltd.による「イヌリン」の海外事業は、製造拠点のタイ国からインドネシア、フィリピン、

マレーシア、ベトナム、台湾等、周辺国への拡販が本格化した事により販売数量が増加しました。特にインドネシアでは、食品素材展示会への出展などを実施して、重点的な営業活動を進めています。

その他食品事業のタイ連結子会社DAY PLUS (THAILAND) Co., Ltd.によるパン製造・販売は、同国内のコンビニエンスストアや大手量販店への納入に加え、ベトナム、カンボジア、ラオス等への展開も開始しています。

Q 終了した3か年中期経営計画の総括をお聞かせください。

A ベース事業の維持に向けた基盤を整備。機能性素材事業の育成は道半ばながらも進展を示しています。

2017年3月期から始動した3か年中期経営計画は、最終年度の連結業績目標のうち、「営業利益10億円」「経常利益12億50百万円」を超過する成果を上げましたが、「売上高205億円」には届かず、「親会社株主に帰属する当期純利益8億20百万円」は、減損損失の計上により未達となりました。

売上高の伸び悩みは、精糖事業において海外原糖相場の下落を受けて製品価格が予想を下回ったこと、「イヌリン」の販売数量も当初の計画を下回ったことが主な要因です。しかし液糖生産の集約によって収益性を高めるなど、ベース事業の維持に向けた基盤整備を果たし、機能性素材事業の育成については、道半ばながらも「イヌリン」を中心に食品素材による成長への足掛かりを築くことができました。

一方、次世代につながる新たなビジネスの育成については、連結子会社の協立食品株式会社において新たに輸入食品原料の販売に取り組んでいるところです。

当社はこれらの成果と課題を踏まえ、次にご説明させていただく新3か年中期経営計画を推進してまいります。

Q 今回策定した新3か年中期経営計画をご説明願います。

A 事業環境の変化に対応し、独自に成長を持続できる会社を実現すべく、4項目の基本戦略を遂行します。

2020年3月期より始動した新中期経営計画は、事業環境の変化に柔軟に対応し、独自に成長を持続できる会社を目指す3年間の取り組みを基軸として策定しました。その重点施策と業績目標については、ローリング方式で今後1年ごとに見直し、更新していく考えです。

今後の事業環境を展望すると、2018年末に発効した環太平洋経済連携協定（TPP11）や2019年2月に発効した日欧経済連携協定（EPA）により、加糖調製品や製品輸入の拡大に伴う砂糖需要の減少が懸念されています。そうした中で当社は、非砂糖分野のさらなる拡大と海外市場の開拓をより加速していく必要に迫られています。

かかる状況下、新中期経営計画は「非砂糖分野のさらなる拡大」「輸出入・三国間貿易による海外への挑戦」「社員教育の強化と新人事制度の導入」「ESG（環境・社会・ガバナンス）経営の推進」の4項目を基本戦略に定め、その遂行を通じて2022年3月期の連結業績における「売上高225億円」「営業利益19億円」「経常利益20億円」「親会社株主に帰属する当期純利益14億50百万円」の達成を目指します。

各事業の重点施策としては、精糖事業では、営業力を拡充しつつ、引き続き製造コスト圧縮・効率化を追求し、体質強化を図ります。さらに前述の協立食品株式会社による輸入食品原料の販売に関しては、精糖事業の顧客に向けた営業を展開し、より太い商流を築いていく考えです。機能性素材事業は、国内・海外における「イヌリン」の拡販を加速すべく、商品提案の幅を広げていきます。同時に「イヌリン」に次ぐ新たな機能性素材の開拓にも着手して行きます。ユニテックフーズ株式会社は、ゼラチン・ペクチン商売の伸びを維持しながら、健康関連の食品素材などについて一層の拡販に努めます。そして内部施策では、「働き方改革」をはじめとする人事制度の整備や職場環境の改善を推進し、「夢のあるたくましい会社」の実現に全社一丸となって取り組んでまいります。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 非砂糖分野のさらなる拡大と海外市場の開拓を着実に進展させ、成長の基盤固めを行ってまいります。

当期の連結業績は、一過性要因により親会社株主に帰属する当期純利益が減益となりましたが、今回の期末配当については、安定配当の維持を基本とする利益還元方針に則り、予定通り1株当たり11円（前期同額）を実施しました。

2020年3月期の連結業績は、売上高205億円（当期比4.4%増）と増収を見込んでいますが、利益面は、精糖事業における運送費の上昇などによる影響を想定し、営業利益13億円（同3.6%減）、経常利益14億円（同11.0%減）を予想しています。親会社株主に帰属する当期純利益は、9億50百万円（同176.1%増）と大きく改善する見通しです。

なお、2020年3月期の期末配当については、上述方針通り引き続き1株当たり11円を予定しています。

新中期経営計画の初年度として、非砂糖分野のさらなる拡大と海外市場の開拓を着実に進展させ、「独自に成長を持続できる会社」を実現するための基盤固めを行ってまいります。

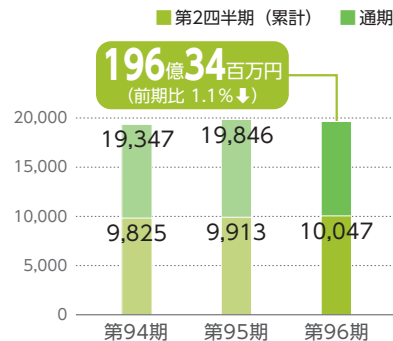
株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



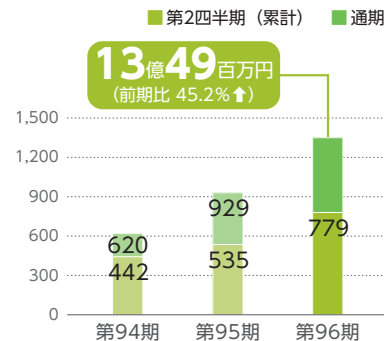
連結業績ハイライト

CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS

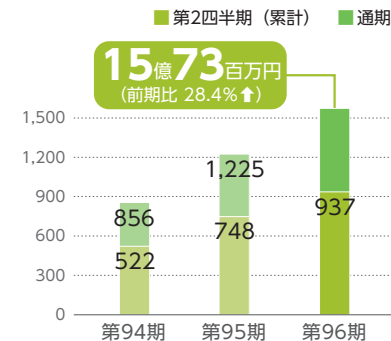
売上高 単位：百万円



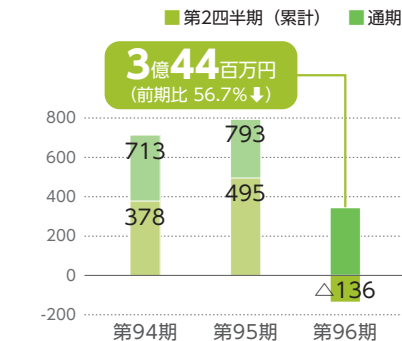
営業利益 単位：百万円



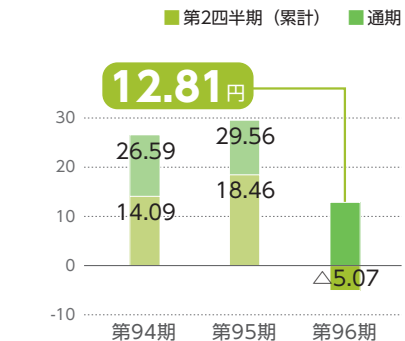
経常利益 単位：百万円



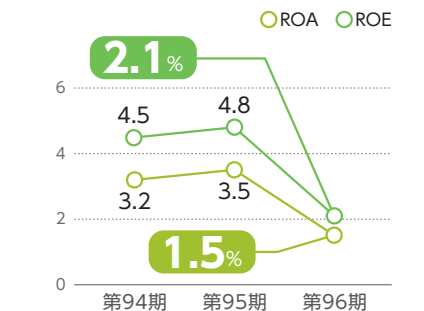
親会社株主に帰属する当期純利益 単位：百万円

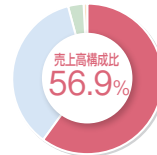


1株当たり当期純利益 単位：円



総資産利益率 (ROA) 自己資本利益率 (ROE) 単位：%





精糖事業

事業内容：精製糖、砂糖関連製品の製造販売を行っております。

当期の概況

売上高：11,171百万円
営業利益：1,545百万円

精糖事業につきましては、海外原糖市況は期初ニューヨーク先物市場12.33セント（1ポンド当たり）で始まりましたが、前年に続く世界砂糖需給の供給過剰により続落すると、9月にはおよそ10年ぶりとなる10セント割れを記録しました。その後、2019/2020クロープの世界需給が、再び供給不足に転じるとの観測から14セント台まで反発しましたが、原油価格の低迷や米中間の貿易紛争の影響などにより、再び下落に転じ、12.53セントにて期末を迎えました。

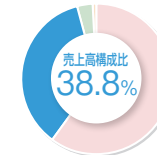
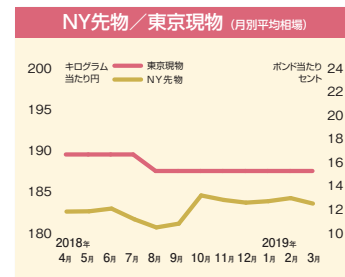
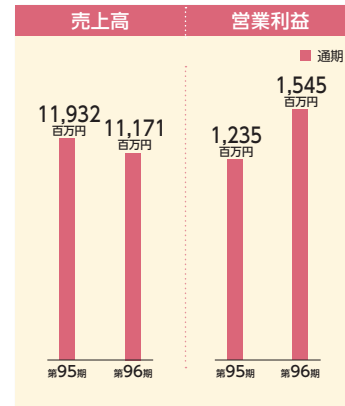
ニューヨーク市場先物相場（セント/ポンド当たり）の動き

期初	高値	安値	期末	平均
12.33	14.24	9.83	12.53	12.06

一方、国内製品市況は期初東京現物相場189～190円（日本経済新聞掲載）で始まり、海外原糖相場の下落により7月に製品出荷価格を2円引き下げ、187～188円で期末を迎えました。

製品の荷動きについては、ゴールデンウィークは天候に恵まれ、菓子関係は好調に推移したものの、夏場の酷暑の影響や冬場が暖冬傾向になったことから、飲料関係を中心に荷動きは低調に推移し、販売数量は前期を下回りました。しかしながら、液糖生産の集約を図り、生産効率を高めたことなどにより、営業利益は増益となりました。

この結果、売上高は11,171百万円（前年同期比6.4%減）、営業利益は1,545百万円（同25.2%増）の減収・増益となりました。



機能性素材事業

事業内容：機能性食品素材、食品添加物、切花活力剤等の製造販売、果実加工原料の販売を行っております。

当期の概況

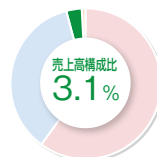
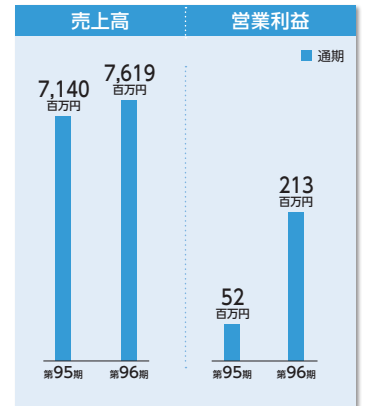
売上高：7,619百万円
営業利益：213百万円

機能性素材事業につきましては、機能性食品部門ではイヌリンは、低糖質素材としての評価が定着してきたことに加え、整腸作用、血糖値の上昇抑制効果、血中脂質の低減効果に関する機能性表示申請が受理され、その効果が認められるなど認知度が向上して来た結果、大手ユーザー向けに新規採用され販売数量は増加いたしました。海外においては、9月にインドネシアで開催された食品素材展示会「Fi-Asia2018」に出展し、タイ国および周辺国での販売に注力した結果、新規採用が増加し、販売数量を伸ばすことができました。

切花活力剤部門では、BS放送でのテレビCMやテレビ通販への参画など、新たなチャネルでの販売増にも力を入れましたが、切花消費の不振の影響により、減収・減益となりました。

連結子会社ユニテックフーズ株式会社におきましては、主力商品であるペクチン、ゼラチンの販売が回復したものの、販売競争の激化により増収・減益となりました。

これらの結果、売上高は7,619百万円（前年同期比6.7%増）、営業利益は213百万円（同305.2%増）の増収・増益となりました。



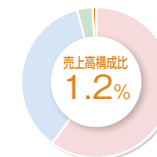
不動産事業

事業内容：当社が所有する土地建物の賃貸およびその他不動産関連事業を行っております。

当期の概況

売上高：614百万円
営業利益：544百万円

不動産事業につきましては、売上高は614百万円（前年同期比0.2%増）、営業利益は544百万円（同1.0%減）の増収・減益となりました。



その他食品事業

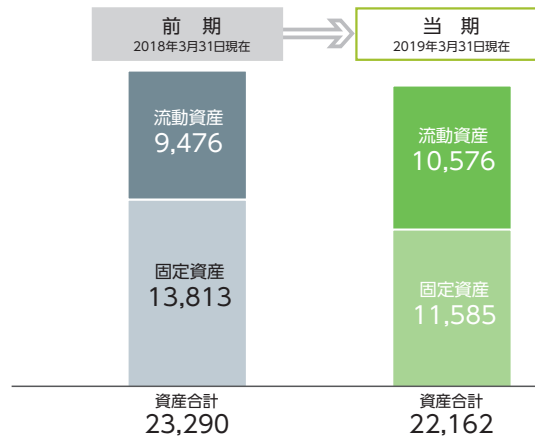
事業内容：タイ国においてパンの製造販売を行っております。

その他食品事業につきましては、タイでの食品関連事業が中心ですが、売上高は228百万円（前年同期比43.8%増）、営業損失は91百万円（前年同期 営業損失127百万円）の増収・増益となりました。

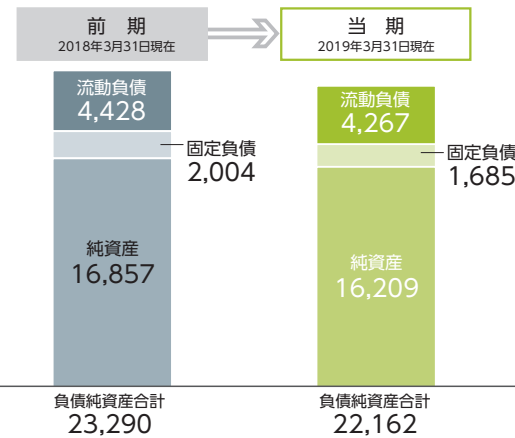


連結貸借対照表

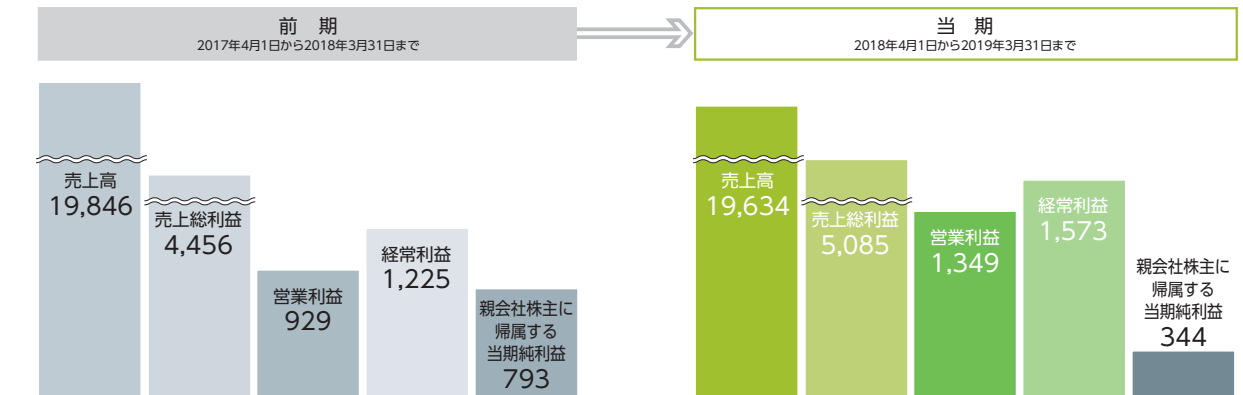
● 資産の部 (単位: 百万円)



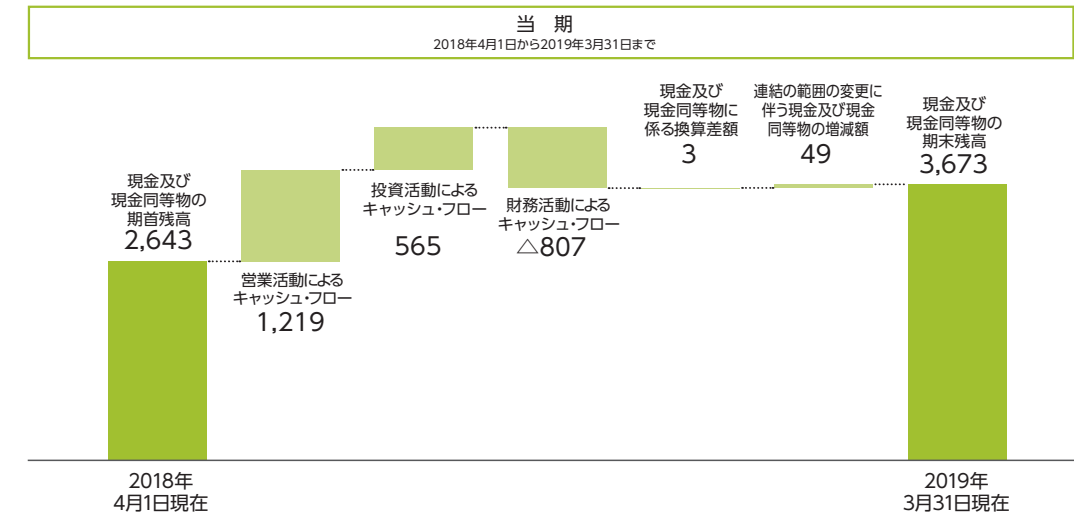
● 負債・純資産の部 (単位: 百万円)



連結損益計算書 (単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)



財務のポイント

● 資産

資産につきましては、流動資産で前期末に比べ11.6%増加し、10,576百万円となりました。これは主として現金および預金の増加等によるものであります。また、固定資産につきましては、前期末に比べ16.1%減少し、11,585百万円となりました。これは主として機械装置および運搬具および投資有価証券の減少等によるものであります。

● 負債

負債につきましては、流動負債で前期末に比べ3.6

%減少し、4,267百万円となりました。これは主として短期借入金の減少等によるものであります。

また、固定負債につきましては、前期末に比べ15.9%減少し、1,685百万円となりました。これは主として繰延税金負債の減少等によるものであります。

● 純資産

純資産につきましては、前期末に比べ3.8%減少し、16,209百万円となりました。これは主としてその他有価証券評価差額金の減少等によるものであります。

会社概要

商号	フジ日本精糖株式会社
英文名	Fuji Nihon Seito Corporation
設立	1949年(昭和24年)7月
資本金	1,524百万円
従業員数	60名
本社所在地	〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町一丁目4番9号 電話 03(3667)7811(代表)
清水工場	〒424-0924 静岡県静岡市清水区清開一丁目4番10号 電話 054(334)5353(代表)
横浜共同生産工場	太平洋製糖株式会社 〒230-0053 神奈川県横浜市鶴見区大黒町13番46号 電話 045(501)0511(代表)
子会社	協立食品株式会社 ユニテックフーズ株式会社 Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd. FUJI NIHON (Thailand) Co.,Ltd. DAY PLUS (THAILAND)Co.,Ltd. UNITEC FOODS KOREA Co.,Ltd.
関連会社	太平洋製糖株式会社 マ・マーマカロニ株式会社 南栄糖業株式会社

役員 (2019年6月18日現在)

代表取締役会長	船越 義和
代表取締役社長	櫻田 誠司
取締役専務執行役員	櫻田 礎久
取締役執行役員	木船 亨
取締役	村上 光廣
取締役	前田 馨
取締役	菊地 正男
常勤監査役	福田 弘
監査役	上平 徹
監査役	坪 好教

執行役員

常務執行役員	小島 康克
上席執行役員	大口 真央
上席執行役員	関根 郁也
執行役員	和田 正
執行役員	吉水 あつ子

監査法人

会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

株式の状況

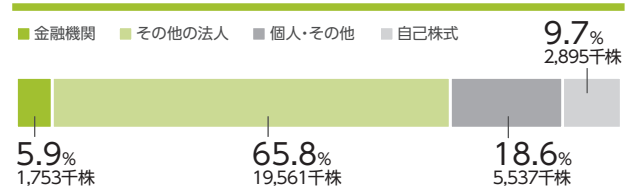
発行可能株式総数	110,000,000株
発行済株式の総数	29,748,200株
株主総数	16,206名

大株主

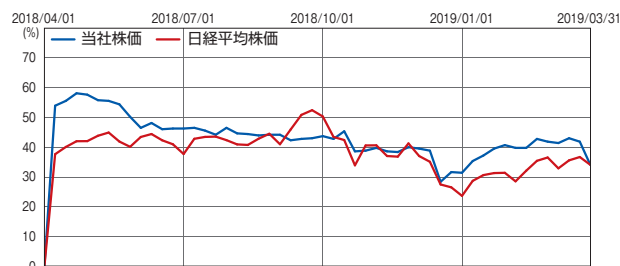
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
双日(株)	8,153	30.4
豊田通商(株)	2,459	9.2
鈴与(株)	1,902	7.1
和田製糖(株)	1,203	4.5
(株)静岡銀行	792	3.0
(株)榎本武平商店	758	2.8
小倉運輸(有)	669	2.5
新潟県砂糖卸荷受商業協同組合	600	2.2
(株)サカタのタネ	563	2.1
東京海上日動火災保険(株)	447	1.7

(注) 持株比率は自己株式(2,895千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



比較チャート (2018年4月1日を基準日とした当社株価と日経平均株価の騰落率)



○キープ・フラワー テレビコマーシャル放映中

キープ・フラワーのコマーシャルをBSテレビ東京の番組で放映しています。

また、当社ホームページでもご覧いただくことができますので、ご興味のある方は是非ご覧ください。

【放送スケジュール】

◆2019年4月～2019年9月
BSテレビ東京 「突撃!隣のスゴイ家」提供

毎週木曜21:00～21:54

◆2019年10月～2020年3月
BSテレビ東京でスポットCM放送予定



○砂糖小袋のブランドマーク リニューアル



当社の砂糖は「さくらんぼ」印と「フジ」印の二つのブランドマークを使用しておりましたが、小袋ブランドマークの統一を進めております。2019年6月下旬を目処に、新しいブランドマークで順次出荷を始める予定です。今後とも、当社の砂糖をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
基準日	3月31日 なお、中間配当を行う場合は9月30日
定時株主総会	毎年6月開催
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場取引所	東京証券取引所
公告方法	当社のホームページに掲載いたします。 公告掲載URL https://www.fnsugar.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

【お知らせ】

- (1) 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

 **フジ日本精糖株式会社**

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町一丁目4番9号
TEL : 03-3667-7811 <https://www.fnsugar.co.jp/>

株主優待について

毎年3月31日現在で当社株式をご所有の株主の皆様へ、所有株式数に応じた自社製品詰合せを毎年6月に贈呈しております。

100株以上	1,000円相当の自社製品
1,000株以上	3,000円相当の自社製品



1,000円相当の自社製品例



3,000円相当の自社製品例



ホームページのご案内

当社ホームページでは、IR情報や商品情報など様々な情報をご覧いただけます。また、ネットショッピングもお楽しみいただけます。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。